

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援ひなぎく					公表日	2025年 1月 31日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		マンツーマンの個別療育と、小集団など人数に合わせて使い分けしている 欠席などで、使用する部屋などが直前に変更することがある	隣の部屋の音が気になり集中できないお子様の場合は、2階（1室のみ）にするなど工夫をする 使用する部屋の設定などの変更など、その都度スタッフと情報共有していく			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		人数や特性に応じて、サポートスタッフを配置している	フリーで動ける職員の配置など、増員をしていく			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		・広めの部屋をハウスやパーテーションで区切って使用することもある。部屋の名前を決め、お子様が自分で確認できるように表示している。階段は安全な昇降をお子様、保護者様とも約束事を決めている ジムやハウスがあることで、構造化されていないと感じることがある	適切な環境設定、備品の配置などもお子様に合わせて配慮を続けていく。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		指導訓練室は装飾をせずシンプルにしている。清掃の徹底。	今後も継続していく			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		必要に応じて大部屋に仕切りを置いて、個別にできるよう工夫している。 パーテーションやハウスなどを活用し、クールダウンなどにも使えるようにしている 「おはなしの部屋」を開放し、絵本を自由に選べる。	今後も継続していく			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		定期的にミーティングを行っている	今後も継続していく			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		保護者の意見に対しては対面で話し合い、改善に取り組んでいます。スタッフ間で読み合わせし、検討しました	貴重な意見をスタッフ全員で話し合い、今後に生かしていく			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		朝礼、終礼、その他個々に意見を言いやすい環境にしている	今後も継続していく			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3		今後の検討課題とします			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	研修受講のため、シフト調整をしているが、十分ではない。	定期的に内部研修をする時間の確保ができていないので、今後の課題とします。			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		スタッフの意見も取り入れて作成、見直しを行いました	今後も継続していく			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		定期的な保護者との面談の他に、担当スタッフがお子様のご様子を出し合い、ニーズの確認をおこない、スタッフで共有、会議を行っている	今後も継続していく			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		スタッフミーティングをごまめに行なっている	今後も継続していく			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		支援計画立案の会議は児発管とスタッフで行い、会議録をスタッフ全員が確認できるようにしている。支援の前に必ず確認するようにしている 個別ファイルをいつでもスタッフが確認できるようにしている	今後も継続していく			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		共通の書式を用いている	今後も継続していく			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		5領域を踏まえた支援内容を心がけている ・月案や専門的支援実施計画にも、個別支援計画の内容を反映して作成している	今後も継続していく			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		・スタッフ同士で適宜話し合っている	今後も継続していく			

坂の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		・前回のプログラムを確認し、教材を変えたりなど工夫している ・スタッフ間で他児に使用したプログラムやツールを共有、流用できる	今後も継続していく
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		・個別療育でも、適宜他児と関わる機会を作っている ・職員間で話し合っている	今後も継続していく
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		・個別療育では、担当するスタッフがその日のプログラム作成をするが、個別療育の細かい内容までは他のスタッフとは共有していない。連携する時間をもっとあってもよい ・毎朝ミーティングをおこない、一日の役割や業務内容を確認している ・複数スタッフで支援する場合は、具体的な支援内容と分担を確認し合っている	日々のプログラム作成のチーム連携ができる時間を多く確保していく
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		終礼で行っている。保護者からの情報を当日不在のスタッフ間で共有ができていない場合がある。	全体で周知する情報はこまめに記録に残すことを徹底していく
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		細かく支援記録をしている モニタリング時など、記録も活用しながら支援の検証・改善につなげている	今後も継続していく
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		定期的に行っている	今後も継続していく
	関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		主に担当しているスタッフが三画している
25		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		必要時、保育園、幼稚園、医療（PT訓練）、市の家庭児童相談員などと連携している	今後も継続していく
26		併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1	保育園や幼稚園などに見学に行き、集団生活の課題を確認し、支援内容の情報共有をしている	今後も継続していく
27		就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	3	該当する事案は現在ない	該当する事案は現在ないが、情報共有が必要な事案の際は対応する
28		(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
29		質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30		(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31		(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5		児童発達支援センターと併行利用のお子様に対して、適宜アドバイスをいただいたり、センターでの活動を見学させていただいた。	今後も継続していく
32		保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	4	ひなぎく広場を企画し、地域に向けて呼びかけを行っている。	今後も継続していく
33		日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		・日々の状況は担当スタッフが保護者とフィードバックの時間を設けて情報共有している ・お迎えのタイミングで、十分なぐいードバックが出来ないことがある	日々の情報を記録することになっているが、記入漏れなども生じているため、個々の情報の記録の徹底を検討していく
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		保護者が待機したり話をする部屋に公的な研修や情報のチラシを貼り、目に見えるようにしている。	事業所内でペアレントトレーニングの開催は今後の課題とする	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約の際に、丁寧に伝えている。運営規定が変更になった際は、重要事項説明書の内容も変更になるため、その都度お知らせしている。	今後も継続していく	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		適宜面談をおこなっている	今後も継続していく	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		適宜面談をおこなっている	今後も継続していく
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		適宜面談をおこなっている	今後も継続していく
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	2	・年長児の親を集めて話をする機会や、必要に応じて親同士が話ができる場を作っている。 ・個別療育中心としているため、保護者が一堂に集う機会はなく、保護者会なども設定していない	・グループ療育では、保護者の交流の機会を設けたり、必要時保護者同士の交流の機会を設けるよう設定していく
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		相談や申し入れに対しては随時対応している	今後も継続していく
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		公式ラインにて、利用者限定で連絡事項、情報などを発信している。HP、ブログ、Instagramなどで活動の様子を発信している	今後も継続していく
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		契約時に説明し、写真などの使用に関する同意の有無を確認している	今後も継続していく
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		言葉だけではなく、文書などでも伝える工夫をしている	今後も継続していく
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7		・ひなぎく広場のチラシを地域に掲載し、呼びかけている。 ・消防署の方と消火訓練をする際、地域住民にも参加を呼び掛けている	今後も継続していく
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		各会議などで、マニュアルの読み合わせや内容確認、訓練などをおこない、保護者用マニュアルの配布をしている	今後も継続していく
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		BCPを策定し、定期的に必要な訓練をおこなっている	今後も継続していく
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7		・契約時にかくにんしている ・ご契約ごも、突起すべき事案が压制した場合は記録に残している	今後も継続していく
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		保護者と面談の上、おやつ提供の配慮をおこなっている	今後も継続していく
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		・安全計画を作成し、月1回の安全点検、その他飛鳥な訓練を実施している	今後も継続していく
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		・契約時に「安心安全マニュアル」の説明、配布している	今後も継続していく
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		事案があった際には随時話し合い検討している	今後も継続していく
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		・職員研修をおこなっている	今後も継続していく
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7		・職員研修をおこなっている。 ・やむを得ず身体拘束を行う場合については契約時に保護者にも説明している	今後も継続していく	